

施策事例 ⑤ 環境関連施策

自然再生による地域活性化（小さな自然再生支援助成事業と企業協定）

自治体情報

兵庫県豊岡市

人口 / 87,946人

標準財政規模 / 29,173百万円

担当課 コウノトリ共生部コウノトリ共生課

電話番号 直通 0796-21-9017

実施主体 豊岡市

関連ホームページ <http://wac-s.net/modules/blog/index.php?cid=1>

事業期間 平成23年度から

関係施策分類 ①、④

予算関連データ

総事業費：800千円

名称	所管	金額(千円)
一般財源	-	800

施策のポイント

コウノトリ野生復帰と生物多様性をキーワードに、集落自身の力による地域活性の動きが生まれている。行政は「主体」ではなく、あくまで「側面的サポート」を行うことで活性化を後押ししている。伝統芸能や特産品による地域おこしとは違う切り口の、地域の自然を保全することで生まれる活性化。市で「小さな自然再生活動支援助成事業」を制度化するとともに、企業による地域への支援協定を実現した。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

豊岡市は、コウノトリ野生復帰の取組みを核にまちづくりを進めており、現在40羽を超えるコウノトリが人里で暮らしている。

平成20年の春、日本海に面した漁村・田結（たい）地区に突然コウノトリが舞い降り、餌をついばむようになった。田結の谷あいに広がる約20haの水田は、減反や獣害等によりすべてが耕作放棄地となっていたが、水生生物等小さな生きものにとっては楽園のような場所であることをコウノトリが教えてくれた。

それ以来、住民個々の財産である水田を村の共有財産と捉え、放棄田をコウノトリが舞い降りる湿地として機能させるよう地域ぐるみで取り組んでいる。

2. 取組の具体的内容

- ・住民が、市内NPO等と協働し、村の日役（ひやく＝共同作業）で畦づくりや池掘りなど小さな自然再生を行っている。
- ・その成果が学術的にも評価され、研究者や学生が研究フィールドとして活用している。
- ・地元小学校も、授業で生きもの調査に訪れている。
- ・一般の観光客も増え、住民（ご婦人方）がツーリズムガイドの勉強会を行っている。
- ・こうした動きを受けて、兵庫県が、「おいでコウノトリ、来るな土砂災害」と銘打ち、元水田の保水機能向上と治水対策を兼ねた河川砂防工事を実施した。
- ・市は、調整や仲介役、マンパワーの提供、一部資金援助等で側面サポートを行っている。
- ・市の仲介により、企業が地域の生物多様性保全の動きを応援し、子ども向け環境教室のフィールドとしても活用を始めた。（→協定の締結）
- ・田結地区での動きを他地域にも広げるべく、市の施策として「小さな自然再生活動支援助成事業」を制度化した。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

- ・各地の谷あいに広がる耕作放棄地に、地域の共有財産として公共的な意味を見出し、将来世代につないでいく動きを呼び起こす。
- ・住民自身が、自らの周りの自然環境を見つめ直し、小さな自然再生を通じて地域が元気になっていく姿を目指す。
- ・生物多様性保全の動きに企業を巻き込み、民間資金を導入した持続可能性担保を目指す。
- ・小さな市民活動への助成 50千円上限/件（予算800千円＝16件分）

4. 現在までの実績・成果

- ・企業、地域、市内NPO、市による四者協定を締結し、民間資金を呼び込んだ。
- ・市内長谷（ながたに）地区で、休耕田を含む里山風景を保全しようとする自然再生活動がスタートし、助成申請あり。第二の田結に向けた動き。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦勞した点とその対処法・解決策など

- ・コウノトリの野生復帰は進み、環境創造型農業等の取組みも拡大しつつあるが、そのもの自体に生産性のない「自然再生活動」に市民や企業を巻き込もうとする制度は初めて。
- ・事業の設計や進め方は、手探りな部分もあり、実例を見ながら手入れが必要。

6. 今後の課題と展開

- ・あくまで主体は地域。我が村の自然を守り継ぐという意欲を持った元気な地域に市としての公益性を見出し、側面から応援するというスタイルを堅持する。
- ・自然再生を地域活性化に結びつけるための「しかけ」を打っていく。